

令和6年度第3回清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会 議事録

日時: 令和7年2月19日(水)

10:00～12:00

場所: 岐阜県庁 20 階

20 階 会議室 2001、2002

1 開会

[司会（北川 管理調整監）]

本日は、清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会の開催にあたり、ご多忙の中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたり林政部長より挨拶申し上げます。

2 あいさつ

[久松 林政部長]

(あいさつ) ～略～

[司会（北川 管理調整監）]

続きまして、小見山会長から、ご挨拶をお願いします。

[小見山 会長]

皆さん、おはようございます。今年度最後の審議会ですが、その目的は県民の方より創意工夫をいただいて基金事業の行動力を高めることにあります。タイトルだけ見ましても、随分面白い活動があると思いますが、実質的にその内容を評価するために審議を行います。委員の皆さんには、様々な意見をいただければと思います。以上です。

[司会（北川 管理調整監）]

ありがとうございました。それでは、これより後の進行につきましては、小見山会長にお願いいたします。

3 議事

(1) 令和7年度清流の国ぎふ地域活動促進事業採択案について

[小見山 会長]

それでは、ただ今から会議を進めてまいります。円滑な議事進行にご協力をお願いします。はじめに、令和7年度清流の国ぎふ地域活動促進事業の採択について、事務局から説明をお願いします。

[説明1（山岸 森林活用推進課）]

(資料1、2、3により、令和7年度清流の国ぎふ地域活動促進事業の採択について説明)

～略～

※ [中略] 審査案件事項のため非公開

(2) その他

- ・ 令和 6 年度予算の変更
- ・ 令和 7 年度予算の追加

[山岸 森林活用推進課長]

前回の審議会において、令和 6 年度事業の中間報告び令和 7 年度予算（案）について、ご審議いただきましたが、その後令和 6 年度予算の変更と令和 7 年度当初予算で追加となった点についてご報告をいたします。最初に、令和 6 年度事業の変更について、林政課三宅課長よろしくをお願いします。

[説明 2（三宅 林政課長）]

（令和 6 年度予算の変更について説明（資料なし））

～略～

[小見山 会長]

ありがとうございました。8000 万円いただくということで素晴らしい話ですね。CO2 対策、森林の炭素固定ですね。ここは基金の中の内容も入ってきます。よろしいですか。では、次の報告をお願いします。

[山岸 森林活用推進課長]

続きまして、令和 7 年度予算の追加項目につきまして、農村振興課の林課長補佐よろしくをお願いします。

[説明 3（林 農村振興課 技術課長補佐兼係長）]

（資料 4 により、令和 7 年度予算の追加について説明）

～略～

[小見山 会長]

ありがとうございました。2 件追加ということですかね。600 万と 900 万円。いずれもニホンザルに関わるところで、我々の 3 本柱の 1 つの中でシカはよくやってるんだけど、イノシシはどうかと思ったり、ニホンザルは手はつけてるけども、まだまだというところだったんですよね。だからこれはある意味で渡りに船のような計画になってるんだと思います。これは森林・環境基金の中でやられるわけですが、我々の基本スタンスとしては、学理を調べて、応用につなげる。最終的には、何かその集落がサルにやられる機会が減ることが、大事なターゲットになると思いますね。広くアイデアを募集するとか、知事さんが考えられていることかな。それから 2 番目が対策事業ということで、さっき言ったスタンスの中では学理にあ

たる。上の1番が応用にあたることになるのかなと思ったりしますね。確かに、我々広く意見を聞くということは、あんまり実はやっていなくて学理に偏っちゃうんで、それから学理自体も予算不足でスタックしている気がします。シカ以外手が付けられないのは、そのため。カワウとか色んなものがありますけども、それを解決する手にはなるんじゃないかなと思いますけど、いかがですか。

[加藤 委員]

行動圏の把握というのはどこが行うのですか。

[林 農村振興課 技術課長補佐兼係長]

まずGPSを取りつけることに関しましては、専門業者がありますので、そちらの方にGPSを取り付けていただきます。その後のデータにつきましては、群れが生息する市町村のほうに、データが収集できる基地局を設けまして、市町村のほうでデータを管理していただくことになります。そのデータをゆくゆくは、広報で流すだとか、猟友会の方に連絡して追い払いに使うとか、そういった仕組みを考えています。

[加藤 委員]

行動圏の解析そのものは誰もしないということですか。データが集まるだけですか。

[林 農村振興課 技術課長補佐兼係長]

GPSを取りつける業者には、そのまとまったデータ解析は年単位もしくは月単位でデータ解析を最終的にはしていただきます。ただ、タイムリーな情報として、アプリで、市町村がそれを目視、確認することができるものですから、それは常に使っていきます。最終的な解析は業者の方をお願いします。

[加藤 委員]

どれくらいの群れ数が対象になる予定なんですか。

[林 農村振興課 技術課長補佐兼係長]

県内には、160群れあるとされております。このうち、常に農地に現れ、被害をもたらす、我々は加害レベルが高いレベル4の群れと言っているんですけども、それが、資料4の一番下に記載がございます、11の市町、括弧の中は群れ数ですけども、全部で26群れございます。

[加藤 委員]

これ全部を対象にされる。

[林 農村振興課 技術課長補佐兼係長]

この予算でいけるのは、3群れが限界と思っております。ゆくゆくはですね、この26群れ全部になるように、まずは3群れを詳しく調査したいというふうに考えております。

[小見山 会長]

そこちょっと気になりますね。実際に誰がどういうふう to これを分析して、これ言うたらアビリティデベロップメントとか、能力開発みたいなところに繋がっていると思うんでやっていきたいんですけども、かなり市町村が関わってくるということですね。県ではシンクタンクの中に鳥獣害被害のことをやる人がいらっしゃるしませんでしたか。そことの関係はどうなるのですか。

[吉川 環境生活政策課長]

野生動物管理推進センターの方で中心にやっておりますのは、シカとやはりイノシシの専門家がいます。ただ、残念ながらですね、そのサル対策というのは、大変申し訳ないんですけど、県内にはですね、これという知見を持った方がおられないものですから、そういった業者であったり、他県の有識者の方のご意見も伺いながら対策を進めているところでございます。

[小見山 会長]

そこが大事なんじゃないですか。これだけ大きな問題になっているので、県組織の中にそういう専門家がない方がおかしい。人件費は出しにくいと思うんですけども、何かそういう人を雇う方法、県に引き入れる方法、自分の場所として考えてもらうような研究者、これが必要なんじゃないですか。

[吉川 環境生活政策課長]

おっしゃる通りです。私どももそのところをですね、センターの方ともご相談しながら、何とか、他の獣種もでございますので、我々、県の職員の中でもそういった知見を高めていかないといけないと思います。そういった専門の人間をですね育成していかないといけないと思っておりますし、そういった有識者の方でもですね、センターの中で活躍いただくような、そういった方を招致するといったことも考えていきたいということは、センターと話ししております。

[小見山 会長]

県組織としてのセンターがそういう機能をきちんと持って、中心となって、市町村の人たちを育てていく。こういう構造を作っていない限り、この問題は収まらないです。1 番目（資料 4）も大事ですけども、それだけじゃ駄目でやっぱり学理を伴った、変更にしていかないと、なかなかうまくいかないですね。サルは、昼間ばかり出て夜はどこに居るか分からないし、それから人間に近いもんだから、やたらめったら獲るわけにもいきませんよね。だから、これはすごく扱いが難しい動物だと思うんで、そこはやっぱり専門家を県で育てるという視点をこの際にきちんと入れて欲しいですね、強く要望します。

[吉川 環境生活政策課長]

センターの共同で運営しております岐阜大学さんともですね、そのところはちょっと相談をして参りたいと思います。

[小見山 会長]

今の岐阜大学にサルの専門家は居ないけれど、日本にはかなり居るでしょうね。

[加藤 委員]

ご存じかも知れませんが、大学間で例えばクロスアポイントメント制度とかで、うまく併任で来ていただく。最近、肩書きを2つ、例えば、名古屋大と横浜国大の2つ肩書きを持つような教員も出てきてるので、何かそういう制度とかもうまく、岐阜大学がそれを取り入れてるかどうかわからないんですけど、そういうこととか、県のセンターとか、或いは他の都道府県の大学とか、県立の大学にしろそういったところに専門家がいれば、そういったところで、地に足をつけてもらうために、肩書きがあれば、結果的に思い入れが生まれると思うので、そういったところもうまく利用できたらと思います。

[小見山 会長]

他の委員の皆さんも同意していただけますか。やはり、ここはすごい大事なところで、せっかく知事さんがおっしゃっていられることが、上手くいくかいかないのかは、そこにかかっていると私は思います。幾ら意見を集めても、まとめる知識がないと駄目です。超専門家が必要だと思います。それを強くお願いしたい。

[所 委員]

予算がないところに立つんですが、計算根拠というのはなかなか難しいと私は思ってるんですが、例えば大事なことで、1つ予算をとってみると、どういう動きがあってどれぐらいの事業になって、どれぐらいの効果がある。であれば、翌年度は本格的にこうしようとか、そんなような理解をしてるんですけども、そんな感じでよろしいですか。ついつい最低の費用で最大の効果をということにすると、まず数字を見せて欲しいみたいなこと言いがちなんですけど、そんなつもりもないんで。そういったことでしょかね。

[林 農村振興課 技術課長補佐兼係長]

サルの被害額につきましては、毎年3000万円近くあるというところで、これが毎年毎年積み重なっていくと同時に、先ほど少し申し上げました通り、耕作放棄地が増えていたり、農家さんが居なくなっていくという、県の財産そのものですね、失われていくことを考えていけば、この取り組みによってですね、優良事例ができて、なおかつ、これを全国にも波及する可能性を秘めております。その中で、取り組みがもし、900万円で思いもよらないアイデアが出てきたら、経済効果は有効なものではないかと思います。

[小見山 会長]

経済効果も考えて欲しいんですけど、本当はやっぱり地域の人の暮らしに対する効果ですよ。サルが跋扈する、農産物がやられてしまうっていうようなところを、少しでもどうしたらいいのかということ、みんなで考えようとする。そういう方向がいいんじゃないですかね、最初は。最後はその効果性に結びつけていただかないとは思いますが。これはかなりエポ

ックメイキングなところになって、我々としても、サルはどうなるのだろうかと思っていたところが、ちょっと明かりが見えてきたということで、1つ、今の審議会からの要望を処理していただきたいと思います。

本日の議事は以上となりますが、その他に何かございませんでしょうか。それでは、事務局へお返しします。

4 閉会

[司会（北川 管理調整監）]

予定していた議事については以上となります。本日も、熱心なご議論をいただき、ありがとうございました。

なお、本審議会委員については、任期を2年とさせていただいており、今年度が任期の区切りとなります。現在の9名の委員のうち笠井委員、所委員、木田委員の3名が本年3月31日の任期をもってご退任されることとなりました。県を代表して林政部次長よりお礼を申し上げます。

[小川 林政部次長]

（お礼あいさつ） ～略～

[司会（北川 管理調整監）]

それでは、ご退任にあたりまして、笠井委員より順にお言葉を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。（笠井委員、所委員、木田委員の順）

[退任委員]

（あいさつ） ～略～

[司会（北川 管理調整監）]

ありがとうございました。続きまして、会を代表して小見山会長、ご退任される委員の方々へ一言お願いします。

[小見山 会長]

（あいさつ） ～略～

[司会（北川 管理調整監）]

ありがとうございました。

閉会にあたり、環境生活部次長からお礼を申し上げます。

[工藤 環境生活部次長]

（あいさつ） ～略～

〔司会（北川 管理調整監）〕

以上をもちまして、本日の会議は全て終了でございます。なお、本日の議事録につきましては、後日まとめて、皆様にお送りするとともに、県のホームページに非公開部分を伏せて掲載させていただきますのでよろしくお願いいたします。